

共通教科情報「情報Ⅱ」取組事例 ～埼玉県立新座柳瀬高等学校～

埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課

埼玉県立新座柳瀬高等学校の取組事例

主体的・対話的で深い学び，探究的な学び，個別最適な学び，協働的な学び

情報Ⅱ 情報セキュリティ関連法規の整備

■学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

情報社会の発展に伴う様々な法律の整備目的を知り、
情報社会の発展に伴う様々な諸課題に対して解決する力を養う。

■評価規準

知識・技能：

情報技術を適切に活用する方法を理解している。

思考・判断・表現：

情報社会の進展で発生しうる問題に対応する方法を考えることができる。

主体的に学習に取り組む態度：

情報社会の進展で発生しうる問題に対応するにはどうしたらよいか考えようとしている。

主体的・対話的で深い学び，探究的な学び，個別最適な学び，協働的な学び

情報Ⅱ 情報セキュリティ関連法規の整備

■情報関連の法律の目的を探ろう

情報社会の発展について知る

- ・ 情報社会について
- ・ society5.0について
- ・ 情報社会の課題
- ・ 情報モラル

情報社会の発展に伴う
法律の目的を探る

- ・ 情報社会に関連する法律
 - 個人情報保護法
 - 不正アクセス禁止法、
 - 青少年インターネット環境整備法
 - 消費者契約法

情報セキュリティ関連法規に
ついて知る

- ・ 条文の目的はこう見よう！
- ・ 各法律の最終的な目的

主体的・対話的で深い学び，探究的な学び，個別最適な学び，協働的な学び

情報Ⅱ 情報セキュリティ関連法規の整備

■授業で使用したスライドとワークシート

情報社会に関連する法律

どのような目的で法律が定められているのか？

[STEP1] 各テーブルで担当する法律を決める。

個人情報保護法、不正アクセス禁止法、
青少年インターネット環境整備法、消費者契約法

[STEP2] それぞれの法律の条文をインターネットで調べて、
目的を見て、何のために各法律が定められているか見よう。

[STEP3] 各テーブルで各法律の目的を共有して共通していそうな事を
考えよう。

■学習指導のポイント

前時の「情報社会の発展」を踏まえ、
情報社会の発展に伴い、様々な法律が整備されてきた中で、
情報社会の発展に伴う法律の制定目的の根幹を各自で考え、
各班で共有したことがポイントである。

情報セキュリティ関連法規がなぜ整備されているか生徒同士で考えさせる授業を実施。

グループワーク 情報関連の法律の目的を探ろう

現代社会では様々な情報関連の法律がある。それぞれの法律の条文を読んで、どのような目的で制定されたのかを確認してみよう。

[STEP1] 各テーブルで担当する法律を決める。

【個人情報保護法、不正アクセス禁止法、青少年インターネット環境整備法、消費者契約法】

[STEP2] 担当する法律の条文をインターネットで調べて、何のために法律が定められているか見る。

[STEP3] 各テーブルで各法律の目的を共有して共通していそうな事を考える。

担当者	法律名	目的（全文は書かない!）
	個人情報保護法	
	不正アクセス禁止法	
	青少年インターネット環境整備法	
	消費者契約法	

各班でこれらの法律の目的として共通していそうなことは何だろうかを考える

情報Ⅱ 情報セキュリティ関連法規の整備

■学習評価の工夫

- ・自身で法律の目的を調べて概略をまとめ、他の班員に伝えた。
- ・それぞれで調べた内容を持ち寄って協議し、何のために制定されたのかを生徒同士の対話を通して学びを深めた。
 - プリントを段階的に評価したこと
 - 他の班員に伝える際に、相互評価を取り入れたこと

■学習評価の改善点

- ・導入、協議、まとめまで25分で実施したため、協議が不十分な班があった。
- ・目的の全文を共有する班もあり、時間を要したため、穴あけ等でまとめた後、個人に限定した課題を用意し、演習後に振り返りの時間を確保する。
- ・習熟度の確認のため、ルーブリック評価を活用し学習評価の改善を図っていく。

埼玉県立新座柳瀬高等学校は、単位制の特色を活かして生徒の多様なニーズや進路希望に応じた多くの選択科目の設定、習熟度別少人数授業展開、少人数授業展開、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通じて生徒の学習意欲を高めている。

今回の授業実践は、情報Ⅱの単元「情報社会の進展と情報技術」より、情報社会の発展に伴う法律の目的を探ることがメインである。本授業は、前時に情報社会の発展について触れた後、法律の整備について学習を進めていく中で、1年次から継続的に行っている主体的・対話的で深い学びの視点での教材を捉え、情報セキュリティ関連法規について生徒同士の対話を通して理解させているところが良い点である。

学習評価について、生徒が記述したプリントを回収して、数値で段階的に評価していることに加え、他の班員に伝える際に、相互評価を取り入れ、生徒が意欲的に参加できるように工夫されている。